

西日本版



山本社長

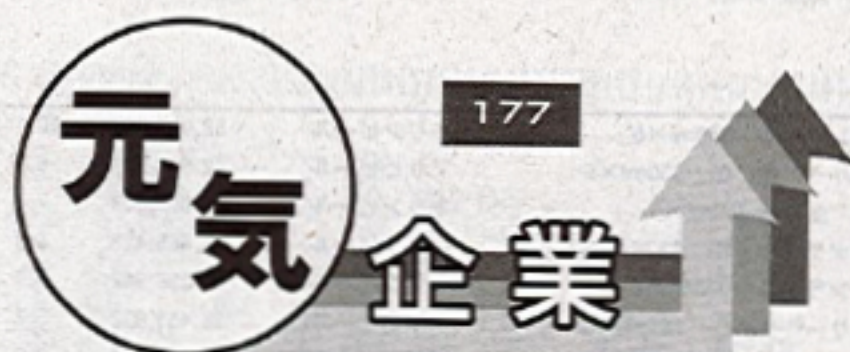
イベリコ豚専門の外食店「IBERICO-YA」などを事業展開するタイシコーポレーション（大阪市西成区、山本真三社長）は6月20日から、飲食店の無断キャンセルを防止する「ショートメール予約サービス」を開始した。同サービスを試験導入した外食店では、無断キャンセルの発生率が2・1%から0・2%に大きく減少したという。山本社長にサービスの詳細と、今後の事業展開について話を聞いた。

（吉澤）

同社が東京・大阪で運営している「IBERICO-YA」では、2〜3年ほど前から予約当日に連絡もなく、来店もしない無断キャンセルが発生し始め、その数も増加していた。イベリコ豚専門店では単価が高く、限られた席数で店

舗運営をしていることから、「無断キャンセルの発生は営業面で非常に大きな影響があった」。多い店だと1ヵ月あたり、「売上ベースで20万円ほどの影響が出ていた」という。対策として、予約客に対して電話をかけていたが、他の業務があることやスタッフの精神的な負担もあって、電話をしなくなることがあった。また、メールではなかなか読まれないことから、ショートメール（SMS）で予約確認を送るサービスを思いつい

タイシコーポレーション



イベリコ豚専門店「IBERICO-YA」

飲食店無断キャンセル防止サービス開始

イベリコ豚のおいしさを伝える

た。SMSを送るようになってからは無断キャンセルがなくなり、来店した翌日にSMSを送ることにより、フードロスの削減に御礼を送ることでリピートもつながっている。SMSの

送信は障害者支援施設に業務を委託。今後は「ショートメール予約サービス」を他の外食店に対してパッケージ化して販売することを計画している。

同社では外食事業のほか、イベリコ豚のギフトセットを販売するギフト事業、イベリコ豚の貿易事業など、イベリコ豚に特化した事業を展開しており、グループ会社には食肉卸の大志プランがある。山本社長は「自分の使命はイベリコ豚を広めることで、イベリコ豚のおいしさを伝えていきたい」と話す。

今後は、アジア圏を中心とした海外でもイベリコ豚の需要が高まると見ている。日本の事業展開をモデルに、外食事業でイベリコ豚の認知度を高めて、食肉卸を事業展開することでアジア圏での「イベリコ豚の販売拡大を目指していく」考えだ。